



農林水産大臣賞典

第39回 マイルチャンピオンシップ南部杯(Jpn I)

盛岡競馬場／3歳以上OP・ダート1600m

10月12日(祝・月)第12競走 18:15発走

南部杯は岩手県競馬組合設立25周年を記念して1988（昭和63）年に設立。当初は「北日本マイルチャンピオンシップ」の冠が付けられ北関東・東北・北海道地区の地方競馬交流重賞として行われました。1995年の第8回からJRAも含めた全国交流に。そして1996年にはOROパーク盛岡競馬場に移動、翌1997年からはGI（2007年からJpnI）の格付けを得て、以降は国内の重要なレースの一角を占め続けています。1998年にはメイセイオペラが、2002年にはトーホウエンペラーが制して地元ファンにとっても非常に印象深いレースです。

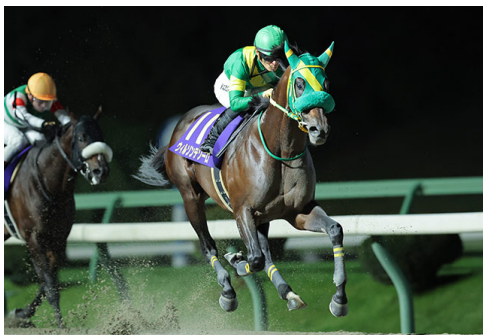
■メイショウハチロー(牡4 JRA・福永祐一厩舎)



前走・東海Sはレースの主導権を握って2着確保。勝ち馬にはきっちり捉えられた形だがあちらは今年のダートグレードで5戦3勝・1400mのスペシャリスト。むしろ重賞級相手でも通用することを確認できたレースになった。さらに相手強化の今回は前走より厳しい展開も予想されるが、好枠を引き鞍上には名手も配した。今の勢いを思い切りぶつけて、そしてGIの扉を開いてみせる。

オーバルスプリントの出走が叶わなかった分、十二分な仕上がりで望めます。相手は強くなりますが馬が得意なコース形態、体調も凄く良いのでチャレンジしてみたい。（福永祐一調教師）

■ウィルソンテソーロ(牡7 JRA・高木登厩舎)



昨年の参戦時の本馬のローテーションは明らかに中距離馬のそれ。しかしどうみても今年はマイラーのそれだ。7歳にしてこの変化を見せるあたりが彼の能力の幅なのだろう。一方で、例えば前走のように押し上げて届かずの結果になることも少なくないのだが、そこもまた彼の走りの個性であり“味”と言える部分だと言いたいところ。今年はどんな走りを見せてくれるか？ひとつ言えるのは今年の彼は「ダートマイル路線の主演」として登場するという事。その貫禄を見せつける戦いだ。

先週の追い切り後にピリッとしてきて最終追い切りでちょうどスイッチが入った感じ。輸送も何度も経験している馬ですし、良い状態で挑めると思います。（高木登調教師）

■キタノズエッジ(牡5 JRA・畑端省吾厩舎)



南部杯への主要な臨戦過程は時代に応じて変化を見せてきた。近年はさきたま杯からのパターンが目につくが、かつては帝王賞から進んでくるのが王道だった時期があったし、近年はかしわ記念やプロキオンSがそれでもあった。この中で共通して言えるのは「前走距離はさほど問われない」という点。1400m実績が厚い本馬にとっては心強くもある傾向といえるだろう。ただし「グレード初挑戦で優勝」は近年ないパターン。これまでよりもう一段上の戦いができるかどうか？が今回の課題であり本馬が挑むべき部分になる。

前走後は休養に出し1ヶ月ほど前に帰厩。酷暑の中でもゆっくりできたのでは。休み明けにしては良い状態。コースも合うと思います。輸送で少し絞れるくらいがいいですね。（畑端省吾調教師）

■サクラトップキッド(牡5 水沢・伊藤和忍厩舎)



昨秋の白山大賞典を皮切りに今年春の川崎記念まで積極的に遠征。そこでの好結果こそ得る事ができなかったが、その経験が昨冬の北上川大賞典・桐花賞制覇に活きたのは間違いない。今年も白山大賞典出走を狙ったが残念ながら選定されず、地元の青藍賞―南部杯に切り替えてきた。小柄だがスタミナ型のゆえか意外に叩き良化型であり、休み明けの青藍賞を叩いてここへのローテーションは悪くない。マイルでも展開ひとつで対応できる。

ひと叩きされて状態は上がってきています。距離にも対応してくれるでしょうし、この先に向けても良い走りを期待します。（伊藤和忍調教師）

■ルクソールカフェ(牡4 JRA・堀宣行厩舎)



3歳の昨年はケンタッキーダービーに挑戦。日本のダート三冠路線はジャパンダートクラシックのみの参戦だったがナルカミの3着と力量のほどは示した。対古馬でも昨年の武蔵野S・今年のエルムSとGIIIながらもダート戦線の中でマイルストーンとなるレースを制しており、あとはGI級のタイトルをいつ手にするか？だけの段階だ。4年前のこのレースを勝った全兄カフェアラオは4歳2月のフェブラリーSを制した。本馬の戦績は現時点ではまだその兄には及ばないものの重なる部分があるのも確か。GI級のタイトルを手にするための準備は整っている。

■ストレングス(牡5 JRA・寺島良厩舎)



キタノズエッジの項でも触れたが1400m主体の路線から南部杯に進んでくる事の不利は、それ自体は全くないと言えるのが近年の傾向。あとは能力、GI級でどれだけ戦えるかが焦点になる。これがダートグレード二度目の出走、GI級には初挑戦の本馬にとってもそこが課題だ。ただ、以前は距離や展開に注文が付きがちだったのが近走はブリンカー無しでも自力で押し通せるようになったのが成長分。ここでの経験もきっとこの先の飛躍に繋がるはず。

2週間前の帰厩でしたが一週前、最終追い切り、いずれも良い動きだったと思います。向こう正面の直線があるのはこの馬にいいんじゃないか。先行力を活かした競馬を。(寺島良調教師)

■バトルバーリライ(牡10 水沢・新田守厩舎)



南関東時代には39戦して掲示板を外したのは僅かに三度という超堅実派。岩手に来てからもそれは変わらず10戦して掲示板圏外は一度だけ。それが10歳馬だということだから頭が下がる。以前にしても今にしても上位のクラスで戦ってなお安定していたのはそれだけ高い地力を備えているということなのだろう。もちろんGI級のこのことなれば話は別、楽な戦いはできないだろうが、10歳馬の奮闘にあっと思わされるシーンを想像してみてもいいかもしれない。

10歳の今年も状態は悪くなく来ています。今年はこの馬に合う戦法も見つかったことが成績の良さに繋がっているのでは。(新田守調教師)

■ペリエール(牡6・JRA 黒岩陽一厩舎)



デビューからここまでのキャリアのほとんどが重賞もしくはOPリステッド。その中では3歳時のユニコーンS、古馬になって昨年のエルムSと世代の節目になるレースも制してきており、本馬の力量もまた確かなものあり・あとはもう一段上のタイトルを獲るだけ、という水準にあるのは間違いない。昨夏に函館・札幌で連勝して小回り巧者の印象も出てきたが、東京ダートマイルも2歳時から得意にしているように南部杯の舞台が合わないとは思えない。フェブラリーでのウィルソンテソーロとの差は1.1秒。これを詰めて、そして逆転を狙う。

まだ重たさが残るという話だったのでゴール板を過ぎてもサポートしてあげるイメージでやや負荷をかける追い切り。前回と同じくらいの状態で挑めそうです。(佐々木大輔騎手)

■リトルサムシング(牡4 水沢・千葉幸喜厩舎)



昨年の金沢3歳三冠のひとつ・サラブレッド大賞典をはじめ重賞3勝。順風満帆のキャリアになるかと思われたがその後は若干伸び悩んでいる印象が否めない。ただそれも夏前まで。夏の盛岡で2連勝したことでこの馬の“戦い方”が再び見えてきた点は改めて注目しておきたいところ。岩手の重賞では6着が最高だが、なにせまだ4歳の若武者だ。勝ったレースも、ここまでの苦しい戦いも、そしてこの南部杯も、ここから再度成長曲線を描くための糧にしてくれるだろう。

調子はいつも安定している馬で今回も良いコンディションで出走できる。ただメンバーや展開に左右される馬。自分の形で戦えるのかどうか？ですね。(千葉幸喜調教師)

■ヒロシクン(セ7 水沢・佐藤雅彦厩舎)



南部杯出走は一昨年以来、グレードレースへの出走は昨年のマーキュリーC以来。そのレースでのメイショウフンジンとの激しい先行争いは本馬の先行力を全国に知らしめたがその反動も小さくはなく、今季は基本的にマイル路線を選んできた。春初戦の赤松杯と前哨戦の青藍賞を勝ち6月の初夏特別では水沢マイルの記録を更新。7歳にして衰えを知らぬ戦いぶりだ。このメンバーで自分の競馬をさせてもらえるかどうか？それによっては厳しい結果も想定されるがそれでも敢えての出走を選択。岩手のエースの戦いを見せる。

前走後も変わりなく来ていますがここは相手が強力だし展開も厳しいでしょうね。ですがこれだけ人気がある馬。ここでも自分の競馬をやりぬくだけです。(佐藤雅彦調教師)

■レーベンスティール(牡6 JRA・田中博康厩舎)



“芝でもダートでも活躍した南部杯勝ち馬”は既に複数いて、そもそも96年の勝ち馬ホクトベガからしてそうだったのだが、いずれも芝とダートを行き来しながら重賞タイトルを積み重ねていた馬。“ここまでは芝のみ”で挑んだ馬からの優勝馬はまだ出ていない。しかし同様の戦績で挑戦した昨年のシックスペンスが2着に食い込んで見せた。グレード実績という点ではウィルソンテソーロにもひけを取らないものをもつ本馬だけに、芝・ダの壁を一気に乗り越えてしまったとしても不思議はない。

以前からダートを試してみたかったのですが、南部杯は力を発揮しやすい舞台だと判断しての参戦。なんとかこの馬にGIを獲らせてあげたいですね。（田中博康調教師）

文・特記無き写真／横川典視

JRA所属馬写真提供／JRA

JRA所属馬コメント協力／グリーンチャンネル

■マイルチャンピオンシップ南部杯／過去5年の優勝馬



2025 優勝／ウィルソンテソーロ

鹿毛 牡6歳
父／キタサンブラック
母／チェストケローズ（母父Uncle Mo）
生産／日高・リョーケンファーム株式会社
馬主／了徳寺健二ホールディングス(株)
調教師／高木 登 騎手／川田将雅



2024 優勝／レモンポップ

栗毛 牡6歳
父／Lemon Drop Kid
母／Unreachable（母父Giant's Causeway）
生産／米・Mr. & Mrs. Oliver S. Tait
馬主／ゴドルフィン
調教師／田中博康 騎手／坂井瑠星



2023 優勝／レモンポップ

栗毛 牡5歳
父／Lemon Drop Kid
母／Unreachable（母父Giant's Causeway）
生産／米・Mr. & Mrs. Oliver S. Tait
馬主／ゴドルフィン
調教師／田中博康 騎手／坂井瑠星



2022 優勝／カフェファラオ

鹿毛 牡5歳
父／American Pharoah
母／Mary's Follies（母父More Than Ready）
生産／米・Paul P. Pompa
馬主／西川光一
調教師／堀 宣行 騎手／福永祐一



2021 優勝／アルクトス

鹿毛 牡6歳
父／アドマイヤオーラ
母／ホシニイノリヲ（母父シンボリクリスエス）
生産／新冠・須崎牧場
馬主／山口功一郎
調教師／栗田 徹 騎手／田邊裕信